

旧広島陸軍被服支廠について

令和5年7月



【位置図】



【建物の概要】

- 現存する4棟のうち1棟を国が, 3棟を県が所有
- 被爆の痕跡を今に伝える国内最大級の被爆建物
- 最古級の鉄筋コンクリート造建築物による
連続して500mに及ぶ歴史的景観に重要文化財級の価値
- 構造は鉄筋コンクリート造とレンガ造が複合する国内で希少な建築物
- 国内で現存する最大級の煉瓦建築物

【規模】

区分	第1~3号棟(県)	第4号棟(国)	合計
外寸 (長さ×幅×高さ)	91m×25m×15m	105m×25m×15m	—
延床面積	5,578㎡×3棟=16,734㎡	4,985㎡	21,719㎡

※4棟の延床面積は, 東京ドーム(グランド面積: 13,000㎡)の約1.7倍

【沿革等】

年		摘 要
大正 3	1914	竣工 陸軍被服支廠（現在109年経過） 陸軍兵士の軍服・軍靴等の製造と貯蔵を担う。
昭和20	1945	被爆 被爆者の臨時救護所として使用
昭和21	1946	広島高等師範学校（現在の広島大学教育学部）として使用
昭和27	1952	国立広島大学整備のため，交換により，大蔵省から3棟を取得
昭和31	1956	日本通運に貸付け（H7年3月まで約40年間）
平成 6	1994	広島市が被爆建物として登録 ■この間，様々な利活用構想が検討されるが，活用されないままとなっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海文化博物館（仮称）構想（H7 県） ・エルミタージュ美術館分館誘致構想（H12 県） ・折り鶴ミュージアム（仮称）構想（H23 広島市）
平成30	2018	<p>○耐震性能等調査結果「震度6強の地震で倒壊する可能性」（30年1月）</p> <p>○耐震改修試算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部利用（博物館等） 1棟約33億円，3棟で100億円 ・建物保存のみ 1棟約28億円，3棟で84億円 <p>■大阪府北部地震のブロック塀倒壊事故（30年6月）</p>
令和元	2019	建物の安全性の確保と建物が有する価値等を考慮して，「1棟保存・2棟解体」の対応方針案を示す。

【沿革等】

年		摘 要
令和 2	2020	煉瓦壁の倒壊防止を目的として、建物壁面補強調査・実施設計業務を実施（2年1月～2年9月） ⇒調査の中で、煉瓦壁の強度が高いことが判明（2年5月）
		煉瓦壁の強度を踏まえ、改めて建物の詳細調査を実施（2年10月～12月） ■煉瓦壁は地震等による倒壊の恐れはないものの 各棟の妻壁補強や屋根瓦の葺替えなどの早急な対応が必要 ■国指定の重要文化財級の価値がある。 ■概算工事費：1棟約5.8億円，3棟で17.4億円
令和 3	2021	詳細調査結果を踏まえて、 ○重要文化財級の価値があり、建物の解体を俎上に載せることは適当でないこと。 ○概算工事費は、低減される見込みであること。 ○広島市からは、3棟保存を求められていること。 ⇒1棟保存，2棟解体」の現行方針案の見直しも含め、 最終的な方向性を検討・整理するとの方針を示す。
県議会6月	定例会	早急に実施する必要がある安全対策等の検討に必要な予算を提案し可決・成立 ○安全対策に係る建物3棟の実実施設計 ○重要文化財の指定に向けた建築物の価値調査 ○活用の方向性のとりまとめに向けた検討 } 令和4年度末に完了
令和 5	2023	国、県、広島市で構成する「旧陸軍被服支廠の保存・継承にかかる研究会」において、 最終的な活用策の議論・検討を実施中。

重要文化財級の価値【建物3階】

国内最古級の鉄筋コンクリート造建築物



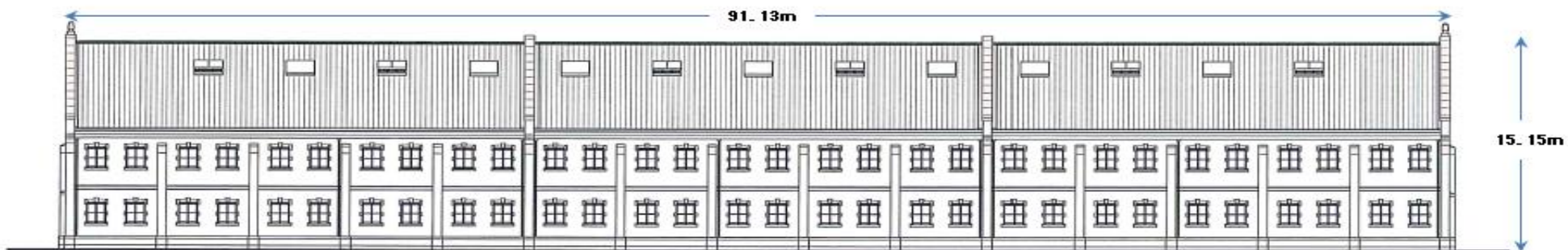
重要文化財級の価値

500mに及ぶ歴史的景観

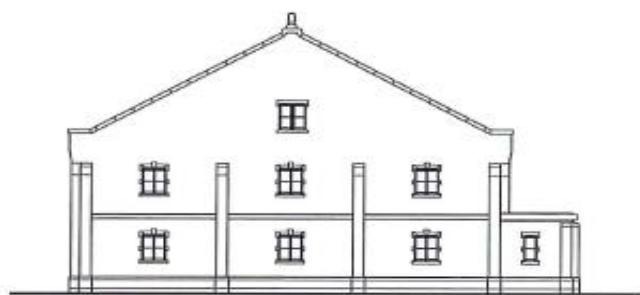




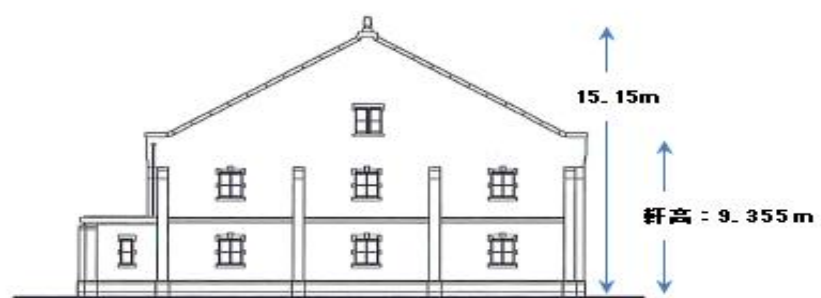
東側



西側



南側



北側

市道幅：4m